

アドベントカレンダーにいろをぬっているのでしょうか。いのりをしてからぬりましょうね。

かみさまからつかわされた、ひとりのひとがいた。そのひとのなはヨハネである。かれは、あかしするためにきた。ひかりについてあかしをするため、また、すべてのひとがかれによって、しんじるようになるためである。かれはひかりではなく、ひかりについて、あかしをするためにきた。

さて、ヨハネのあかしは、こうである。エルサレムのユダヤじんたちが、さいしや、レビびとたちをヨハネのもとへつかわして「あなたは、どなたですか」としつもんさせたとき、かれはこうげんしてかくさず「わたしはメシアではない」といいあらわした。かれらはまた「ではなんですか、あなたはエリヤですか」とたずねると、ヨハネは「ちがう」といった。さらに「あなたは、あのよげんしゃなのですか」とたずねると「そうではない」とこたえた。そこでかれらはいった。「それではいったいなんですか。わたしたちをつかわしたひとびとに、へんじをしなければなりません。あなたはじぶんをなんだというのですか。」ヨハネは、よげんしゃイザヤのことばをもちいていった。「わたしはあれで、さけぶこえである」「しゅのみちをまっすぐにせよ」と。

つかわされたひとたちはファリサイはにぞくしていた。かれらがヨハネにたずねた「あなたはメシアでも、エリヤでも、またよげんしゃでもないのに、なぜ、せんれいをさずけるのですか」というと、ヨハネはこたえた。「わたしはみずでせんれいをさずけるが、あなたがたのなかには、あなたがたのしらないかたがおられる。そのひとは、わたしのあとからこられるかたで、わたしはそのはきものひもをとくしかくもない。」ヨハネがせんれいをさずけていたヨルダンがわのむこうがわ、ベタニアでのできごとだった。

きょうのふくいんしよは、せんしゅうとおなじことばがでていますね、おぼえていますか。せんしゅうはマルコがかいたふくいんでした、きょうはヨハネのかいたものです。

せんれいしゃヨハネは、またあたらしいひょうげんをしています「ひかりについてあかしするためにきた。」とっています、そのひかりはイエスさまのことです。ヨハネはイエスさまのひかりはわたしたちにそそがれていて、わたしたちがみちにまよい、くらやみのなかにいるときも、きぼうへみちびいてくださるほんとうのひかりですといいました。

わたしたちはイエスさまのひかりのなかに生きています、うれしいとき、つらいときどんなときもいっしょにいてくださるイエスさま、いつもわたしたちが、まちがったみちをあるいていたら、まっすぐなみちにもどしてくださるイエスさまのひかりがあります。どんなときに、イエスさまのひかりをかんじたのでしょうか、「かんじた」といったのは、イエスさまのひかりは、こころのなかからあたたためてくださるひかりだからです。

きょうで3ばんめのたいこうせつのにちようび(アドベント)になりましたね、でんとうてきにむかしから、きょうのにちようびは「よろこびのしゅじつ」とよばれています。

イエスさまがうまれるひまであとわずかですよ！とよろこびなさい。イエスさまのひかりをこころのなかにかんじれば、どんなことでもよろこんですることができるでしょう。

せんれいしゃヨハネが、イエスさまのことをみんなにつたえたように、わたしたちもクリスマスのよろこびをまわりのひとびとにわけてあげましょう。

じぶんのまわりにこまっているおともだちがいませんか。ほくわたしになにかできることはないでしょうか。かんがえてみましょうね。